自校教育を通した「建学の精神」の具現化

報告者
大川　一毅（岩手大学　評価室　准教授）
小原　克博（同志社大学　神学部　教授）
木越　康　（大谷大学･大谷大学短期大学部　副学長）

コーディネーター
井上　尚実（大谷大学　文学部　准教授）

参加人数
22名

この分科会では、大学における自校教育について「学修支援」の重要な一環として考えてみたい。京都には多くの大学があるが、それぞれ独自の特色ある「建学の精神」「モットー」を掲げている。それを学生・教職員が共有することは、学生たちがその大学で学ぶ目的や意義を確かめ、学修を方向付けていくための有効な支援になるものと考えられる。この分科会では初年度に自校教育として取り組まれている様々な活動を中心に、近年の傾向と可能性について考えてみたい。

まず総論として大学における自校教育の広がりと今後の可能性について発表いただき、具体的な実践例としては、キリスト教と仏教に基礎をおく二つの宗教系大学において建学の精神を具現化するために行われている取り組みを報告していただく。午後の部の初めには、同志社大学の歴史を伝える美しいキャンパスを会場とする利点を活かし、自校史教育の一環として実施されているキャンパス・ツアーのフィールド・ワーク。「ミッション・スクールのミッション」を広く一般学生に伝え、それを共有していくことには特別な難しさがあるように思われるが、全学必修授業の展開とその改善の試み等について、今回の事例報告や他校における実践をもとにディスカッションを行い、今後進むべき方向、可能性を探ってみたい。

〈第６分科会〉

自校教育を通した「建学の精神」の具現化

○分科会のねらい

京都には多くの大学があるが、それぞれ独自の特色ある「建学の精神」「モットー」を掲げている。それについて学生・教職員が学んで共有することは、学生たちがその大学で学ぶ目的や意義を確かめ、学修を方向付けていくための有効な支援になるものと考えられる。その中心となる自校教育は、現在多くの大学において進められている取り組みであり、これまでのFDフォーラムであまり取り上げられる機会がなかったので、今年度の分科会でその現状と可能性について、研究者・担当者の報告をもとに検討することにした。

○報告の概要

分科会では、まず自校教育について専門的に研究してこられた岩手大学の大川一毅先生から「大学における自校教育の広がりとこれからの可能性」というテーマで基調報告をいただいた。全国の大学で初年度に自校教育として取り組まれている様々な活動を中心に1)自校教育とその実施背景、2)自校教育の実施状況（目的･内容）、3)学生の感想（アンケート調査）、自校教育の意義、4) 自校教育を通じた「建学の精神の具現化」について全般的な提言をいただいた。

次に具体的な実践報告として、キリスト教と仏教にそれぞれ建学の理念をおく二つの大学、同志社大学と大谷大学における自校教育授業について発表いただいた。同志社大学の小原克博先生には「同志社大学における建学の精神とその展開」について、「良心教育」「同志社科目」「良心学」の歴史と現状を中心に報告いただいた。分科会の一部として予定した同志社キャンパス・ツアーは雨天のため実施できなかったが、同志社大学のホームページに公開されている小原先生によるキャンパス・ツアーの動画を視聴し、その概要と効果について説明いただいた。

大谷大学の木越康先生には、「大学における宗教教育の理念と壁と可能性――大谷大学の場合――」というテーマで、建学の精神を具現化するために行われている「人間学」の授業について、その理念と課題を中心に報告いただいた。小原先生と木越先生の報告には、宗教系大学の建学の精神、「ミッション・スクールのミッション」を広く一般学生に伝え、大学全体で共有し、さらに広く社会に公開していく試みの意義・課題・可能性が示されている。各報告の概要については、それぞれの報告者によるまとめを参照されたい。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

報告に対する質問は、学生を巻き込んでいく方法や実際の授業形態に関してなど多岐に渡り、また、分科会参加者の所属する大学における実践例の報告とそれに関する質疑もなされた。

自校教育のとらえ方や位置づけ、実施形態は様々であり、一つの型にはめるよりも多様性の中に可能性を追求することが求められる。他大学における実践を参考にしつつ、それぞれの大学における学修支援として、自校教育を活かしていく努力を継続すべきことが確認された。

大学における自校教育の広がりとこれからの可能性

岩手大学　評価室　准教授　　大川　一毅

大学コンソーシアム京都　第 20 回FDフォーラム

第6分科会
自校教育を通した「建学の精神の具現化」
第1発表

大学における
自校教育の広がりとこれからの可能性

岩手大学　大 川　一 毅

2015年3月1日（日）同志社大学今出川キャンパス 良心館

1

本報告の目的と内容

“自校教育を通した「建学の精神の具現化」”を
考える手がかりとして

- 自校教育とその実施背景
- 自校教育授業の実施状況（目的、内容）
- 学生の感想、自校教育の意義
- 自校教育を通じた「建学の精神の具現化」に向けて

2

「自校教育」のとらえ方

本報告では「自校教育」を

大学の理念、目的、制度、沿革、人物、教育・研究の現況など、「自校に関わる特性・現状・課題等を教育内容、教育題材として実施する一連の教育・学修活動」

と大枠で定める。

3

「自校教育」の広がり

こうした「自校教育」を実施する大学が増えている

中央教育審議会答申
「学士課程教育の構築に向けて（2008年12月）」でも
「初年次における教育の配慮」の記載において
大学に期待される取組として
「適応教育」や「自校史の学習」を例示

4

背景その1　不本意入学者の増加と自校教育への期待

「大学の全入化」の進行や、家計の要請もあり
「入りたい大学よりも入れる大学」への進学・進路指導
（「入れてしまう大学」の増加）

それにともない
こんな学生も増加

- 大学が好きになれない
- 大学で何をしていいか分からない
- 学修に意欲がわかない
- 大学に居場所が見いだせない
- 将来の希望が持てない

こうした背景もあって 自校教育が着目される

5

不本意入学者の増加対応としての自校教育

不本意入学者の増加を背景とした自校教育への着目

「自分が大学とどう関わっていくか」を意識させる授業科目

- 自分の入った大学はどのような大学なのか。
- ここで何ができるのか、どんな可能性があるのか。
- そのために何をしたらよいのか

大学を知り、そこで実現できる自分の可能性を見いだす契機

6

背景その2

「全学一体化」の必要性

少子化にもかかわらず大学数は増加

厳しくなる大学間競争、大学運営環境

志願者・進学者をはじめ、

社会や保護者も大学を見る目が厳しくなる

投入した経費に見合う効果が上がるのか。

「この大学は大丈夫か」

「ステークホルダー」は大学に「成果」を要求するようになってきた。

7

「全学一体化」施策としての自校教育

大学はそれぞれの「大学力」をより強化するために
全学一体化（教職員、学生、卒業生、保護者）施策を推進

その方策の一つとして「自校教育」に着目

自校教育への参画を通じ、

大学構成員の自学に対する意識を高め、

自学の現状を知り、将来を考え、できることは何かを考える

8

背景その3

大学における教育内容、方法の変化

大学設置基準の大綱化（1991）以降
カリキュラムの自由化が進む

「テーマ別科目」や「学際科目」など新しい授業科目が登場

たとえば

「現代日本の環境問題」「街の再開発を考える」「戦争と女性」・・

これら授業では「問題解決型」「学生参画型」等の形態も多い

こうした動向も自校教育が着目される背景となる

9

新たな教育内容、方法の授業科目としての自校教育

「テーマ別科目」や「学際科目」など、
新しい授業科目の増加

自校教育の内容や実施方法が、そうした状況に適合

- **テーマとしての「大学」は、どの学生にも「共通の題材」**
- **問題解決型、学生参画型などの授業形態採用も容易**
- **授業の企画運営に、教職員や卒業生、地域市民も参画**

10

大学における自校教育の実施状況調査

2008年8月

自校教育の実施状況について

全国の国公私立すべての752大学にアンケート協力依頼

373大学が回答（回収率49.6%）

- **全国752大学のうち136大学が「実施」と回答**
  （大学総数の18%）
- **回答からは196授業を確認**
  （国立54授業、公立18授業、私立124授業）

★ ただし「初年次教育科目」等に自校教育内容を織り込んで実施している場合が多い。

11

自校教育の実施状況調査の内容

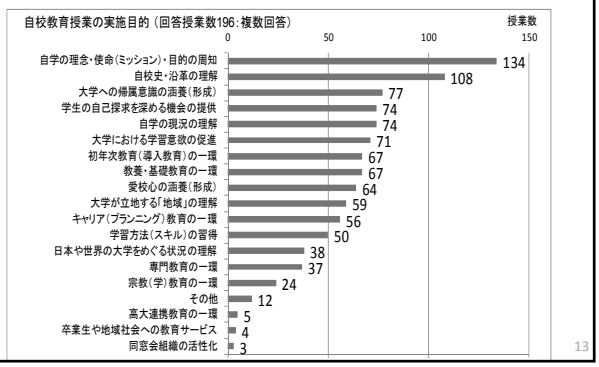
調査内容 （アンケートの設問）

1 自校教育授業の実施有無
2 自校教育授業の実施状況
3 自校教育授業の実施目的
4 自校教育授業の内容と方法
5 自校教育授業の類型
6 学生による授業評価
7 同窓会組織との関係
8 導入実施の課題・問題点
9 自由記述

12

自校教育授業の実施目的

「自学の理念・使命・目的の周知」、「自校史・沿革の理解」が回答上位



13

自校教育授業実施目的の回答

国立大学

「自校史・沿革の理解」（28授業52%）
「自学の現況の理解」（28授業52%）

公立大学

「大学が立地する地域の理解」（12授業：67%）

私立大学

「自学の理念・使命・目的の周知」（97授業：78%）
「自校史・沿革の理解」　（76授業：61%）
「大学への帰属意識の涵養」（52授業：42%）
「愛校心の涵養」　（51授業：41%）

14

自校教育授業実施目的の特徴

・国立大学54回答授業

「大学への帰属意識の涵養」が41%（22授業）。
「愛校心の涵養」は22%（12授業）。

・公立大学18回答授業

「大学への帰属意識の涵養（3授業：17%）」
一方で「愛校心の涵養（1授業：6%）」の回答比率は低い

・私立大学124回答授業

「宗教（学）教育の一環（24授業：19%）」の回答も特徴的

15

自校教育授業の到達目標

自校教育授業のシラバスに多くみられる「到達目標」

- ・自学の目的・理念・使命を理解し、これを説明できる。
- ・自校の歴史・沿革を理解し、これを説明できる。
- ・自学で行われている様々な学問分野を理解し、説明できる。
- ・自らが学ぶ方向性や将来を考える指針を形成する。
- ・大学での学び方（学習スキル）を身につける。
- ・大学で学ぶこと（所属すること）の意義を見出す。
- ・大学における学習意欲を高める。

授業では「大学で学ぶ（所属する）意義を見出す」ことや「自らが学ぶ方向性や将来を考える」といった側面を重視。

16

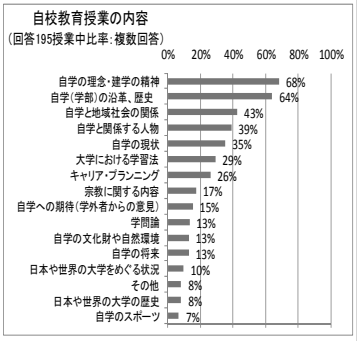
自校教育授業の内容（2008アンケート調査から）

自校教育授業の内容として
回答率60%を超すのが

「自学の理念・建学の精神」
（133授業：68%）

「自学（学部）の沿革・歴史」
（125授業：64%）

これに
・「自学と地域社会の関係」
（83授業：43%）
・「自学と関係する人物」
（76授業：39%）
・「自学の現状」（69授業：35%）
が続く



17

自校教育授業の内容構成

「自校理解教育」を主眼とした授業の内容や形態は多様。

あえてその授業内容を抽出すると

- ・「大学の理念・建学の精神」
- ・「自校沿革史」
- ・「自校の現況」
- ・「地域と大学」
- ・「学生論」
- ・「大学に関わる人物（創設者、卒業生）」
- ・「大学の将来像」

私立大学では「建学の精神」「大学の沿革」
国立大学は「大学の現況と今後の方向性」
公立大学では「地域との関係」に関わる授業内容比率が高くなる。

「自校理解教育」類型授業の内容構成

1	授業ガイダンス
2	建学の精神　（開学の経緯）
3	自学の歴史（戦前期）
4	自学の歴史（戦後教育改革・新制大学）
5	自学の歴史（大学の発展・拡大）
6	学部の歴史（前身校史も含む）
7	大学キャンパス（建築、遺跡、自然）
8	自学における様々な研究活動
9	学長・学部長の講話
10	地域と大学
11	卒業生講演
12	大学と関係する人物
13	学生論
14	大学の現況と将来像

18

自校教育授業の実施事例

参 考

岩手大学　全学共通科目（選択科目）

「大学の歴史と現在」

（1・２年次学生対象）

（授業用配布教材抜粋）

19

参 考　「大学の歴史と現在」 第4回　（2014.5.8）

日本の大学の歴史3　盛岡高等農林学校の設置

本日の到達目標
「盛岡高等農林学校の設置について
　時代背景をふまえながら語ることが出来る。」

20

参考　見えなくなったら「原点」に

岩手大学の地域貢献活動に関する鈴木幸一教授のお話　（当時：地域連携推進センター長）

先が見えなくなったときは、
開学（盛岡高等農林学校）の原点に立ち返るのです。
トップに立つ人が常に源流をたどるのです。
大学がどこから出てきたのかと。
岩手に何をするのかと。
100年以上経っても、その源流を、その遺伝子を、
脈々と今につないでいるのです。

この遺伝子は10年20年でできるような遺伝子ではないのです。

21

参考　石割桜（南部武士気質）　（壬生義士伝）上巻401ページ

ええか、みな良ぐ聞け。
南部盛岡は江戸より百四十里、奥州街道の涯ゆえ、西国のごとき実りはあり申さぬ。おぬしらが豊かな西国の子らに伍して身をば立て、国ば保つのは並大抵のことではねえぞ。
盛岡の桜は石ば割って咲ぐ。盛岡の辛夷は、北さ向いても咲ぐのす。んだば、おぬしらもぬくぬくと春ば来るのを待つではねぞ。

南部の武士ならば、みごと石ば割って咲げ。盛岡の子だれば、北さ向いて咲げ。春に先駆け、世にも人にも先駆けて、あっぱれな花こば咲かせてみろ。

22

参考　まことの稲　（壬生義士伝）下巻416ページ

着任の盛岡に向かう鈍行列車にのりながら吉村貫一郎の語り2

私は学生達に、こう教え続けているのです。
天然の害を回避する品種は本物ではない。天然の害に立ち向かい、それを超克する品種こそ、まことの稲であると。
そう、雨にも負けず、風にも負けず、日照りにも寒さにも負けぬ稲を作り出すことが我々の使命なのです。

私は、私のふるさとに、娘を売らずにすむ稲を育てたいと思います。親子兄弟が別れずに、貧しくとも幸せに暮らせる稲を育てたいと思うのです。

23

参考　凶作と不況に打ち勝つ農業の樹立

1905（明治38）年の開学式　玉利喜造初代校長演説

本校設置の専門学校と地方の実業に関して一言せんに、東北地方の農業一般に幼稚なるは人の知了する所なるが、東北は寒地なれば寒地相当の農業法を組織すべきものなるに、従来関西、西南の温暖地方に於けるが如き農業に準拠して何等特異の点なきが如し、之れ東北農業の振はざる原因にあらずや。

我農林学校は、農林未開の地の中心にあれば、特に其の病根の救治研究に怠らざるべし。而して畜産、果樹、森林経営、獣医学の研究亦た至極の便利を有すれば、今後職員一同勉めて倦まざるに於いては、惟れ学生養成のみならず亦た追々学術及び実業界に於いては見るべき成績を挙げんこと期して俟つべきなり。

24

参考　国立大学法人岩手大学中期目標　第2期（平成22年度～27年度）

（前文）大学の基本的な目標

岩手大学は、地域における知の府としての役割を果たす教育研究の場、すなわち、岩手の風土に根ざした“イーハトーブの学び舎”として、教育、研究、社会貢献活動を推進する。

「地域発展に資すること」を「開学の原点・源流」ととらえ
岩手大学は教育、研究、社会・地域貢献活動を展開

25

自校教育授業に対する学生の感想　1（アンケート回答より）

福岡大学：（「福岡大学を学ぶ」）

- この授業を受け、福岡大学の歴史や研究の実績に触れることで、大学に対してより誇りが持てるようになり好きになった。
- この授業を受けることにより、大学生とはどのような存在で自分がどうすればいいかわかった。

佛教大学：（「佛教大学の理念と歴史A」）

- 人として生きる道が理解できた。
- 大学の長い歴史の理解と、大学に誇りをもって友人に話が出来る。
- 著名な先輩がいることを知った。

26

自校教育授業に対する学生の感想2（アンケート回答より）

岩手大学：（「大学の歴史と現在」）

私は今まで岩手大学ができた経緯について全く知らなかった。しかし、今回の講義で初めて、自分がいる岩手大学が盛岡高等農林学校だったということを学んだ。地方大学であっても、素晴らしい伝統があり、それが脈々と現在に受け継がれていることに感銘を受けた。また、森有礼を始め、歴史上の様々な人物が日本の大学発展に尽力したことを知り、偉人たちの努力を無駄にせず、自分も今までよりさらに勉学に励み、「高度専門職業人材」になれるように頑張りたいと思った。

27

自校教育授業履修学生の感想の共通項

自校教育授業履修学生の感想には

「自学や自学の歴史を知ることで、大学への誇りを持つことができた」

「大学で何ができるのか、何をすべきか、という指針が見えてきた」

という主旨のメッセージが多くみられる。

28

自校教育を通じた学生へのメッセージ

- 自校教育授業では安直な「大学礼賛」や「自虐な大学批判」をしていない。
- 大学の様々な課題を学生に提示したり、今後将来のあり方をともに考えていこうとする姿勢も打ち出している。

授業を通じ**「学生は大学の重要な構成員（あるいは主人公）であり、学生の力よって大学は作られていく」**というメッセージに、学生は敏感に反応する。

29

自校教育実施の意義

★学生に「自学に学ぶ誇りと安心感」を与え

★職員には「自らの職務にアイデンティティ」を与え

★教員には「大学の運営方針や教育活動の指針を確認する機会」となり

★卒業生には「母校の今を体感してもらう機会」となり

★大学にとっては「様々な構成員がつながる契機」となる

このほかにも

教員のFD活動、学生の能動的学修、キャリア支援教育、職員研修、市民のための大学開放、 などの意義もある

30

自校教育に対する学生の懐疑に応じられてるか

⇒ 自学を知ることにどれだけの意味があるのだろうか
⇒ 自学の歴史を知ってどうなるのか
⇒ そもそもこの大学は行きたい大学ではなかった。
そのような大学の精神などに染まりたくないし、
大学の歴史も知りたくない。

これら自校教育に対する学生の懐疑に応じられるか

31

現代的文脈の中で建学の精神をどう伝えるか

その時代の文脈の中で生まれた建学の精神を
今日の学生達にどのように理解してもらうか

**建学の精神を実現しようとする大学と
そこに学ぶ自己が一体となり得るか**

32

学生の大学参加意欲を促す契機となっているか

大学への帰属意識や愛着・愛校心の形成

学生は、大学との関わりが濃密であればあるほど
あるいはキャンパスで過ごす時間が長いほど
大学への帰属意識や愛校心を
強く持つようになると言われる。

（授業、ゼミ、研究室、課外活動、交友関係、大学行事、寮生活）

33

学生の大学参加意欲を促す契機となっているか

自校教育は学生が大学に「参加」する契機となっているか

⇒ 授業づくりに参加 （主体的・能動的学修）
⇒ 大学の行事づくり（企画）に参加
⇒ 大学の学生として、課外活動・社会貢献活動に参加
⇒ 自分の将来づくりに「主体的参画」

34

自校教育の今後に向けて

・自校教育のとらえ方や位置づけ、実施形態は様々。そうした多様性こそがむしろ特色であり、授業としての可能性を持つ。
・自校教育は、卒業生も含めた大学全体の構成員で参画することが可能。
・　自校教育は「大学と卒業生」をつなぐ「卒業生サービス」ともなりうる。
・自学の理念やモットーを「実質化」する教育プログラムや授業を自校教育と位置づける動きもある。

35

自校教育の今後に向けて

**「自校教育」を実施できる大学は「幸せ」！
その僥倖をどう活かすか**

ご清聴ありがとうございました。

第6分科会：自校教育を通した建学の精神の具現化
「大学における自校教育の広がりとこれからの可能性」

36

同志社大学における建学の精神とその教育的展開

同志社大学　神学部　教授　　小原　克博

FDフォーラム　第6分科会
自校教育を通した「建学の精神」の具現化

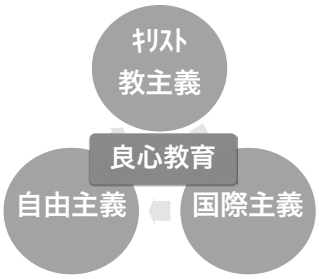
同志社大学における
建学の精神とその教育的展開

同志社大学　小原克博

Overview

- 同志社の建学の精神（教育理念）
- 良心教育の起源――同志社史から
- 同志社科目の開設（2005年）
  - 自校史教育のための教材
- 「良心学」の新設（2014年）
- まとめ――建学の精神の教育的課題と今後

同志社の建学の精神（教育理念）



良心教育の起源
―― 同志社史から ――

良心を手腕に運用するの人物

かくのごとくにして同志社は設立したり。然れどもその目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、その徳性を涵養し、その品行を高尚ならしめ、その精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂(いわゆる)**良心を手腕に運用するの人物**を出ださんことを勉めたりき。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

自治自立の人民

吾人は政府の手において設立したる大学の実に有益なるを疑わず。然(しか)れども人民の手に拠(よ)って設立する大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信ず。素(もと)より資金の高より云い、制度の完備したる所より云えば、私立は官立に比較し得べき者にあらざるべし。然れどもその生徒の独自一己(いっこ)の気象を発揮し、**自治自立の人民**を養成するに至っては、これ**私立大学**特性の長所たるを信ぜずんばあらず。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

一国の良心

一国を維持するは、決して二、三、英雄の力にあらず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざるべからず。これらの人民は**一国の良心**とも謂うべき人々なり。而して吾人は即ち、この**一国の良心**とも謂うべき人々を養成せんと欲す。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

良心碑

良心の全身に充満したる丈夫（ますらお）の起り来たらん事を

- 新島永眠50周年の1940年11月29日（創立記念日）に建てられた。
- 最初の候補は「良心を手腕に運用する」であったが、横田安止（やすただ）宛手紙（1889年11月23日）の言葉に変更。理由：（1）「良心を手腕に運用する」は論理的におかしいとの異論。（2）新島の言葉ではない。（本井康博『千里の志』思文閣出版、2005年、107-108頁）

同志社科目の開設（2005年）

- 初期の同志社では、新島校長が生活を共にしながら、礼拝や授業を通じて、学生・教職員に直接語りかけていた。
- 同志社科目の開設
  - 自校史教育の草分け
  - 登録者数（2014年度）：「建学の精神とキリスト教」（19クラス）5,000名。同志社科目全体10,170名。

同志社科目の構成

- 基礎科目：建学の精神の基本を学ぶ入門科目
  - 「建学の精神とキリスト教」
- 展開科目：建学の精神を詳しく学ぶ発展的な科目
  - 「キリスト教の歴史と同志社」「同志社の歴史」「キリスト教と人間」「キリスト教とは何か」「キリスト教会と現代文化」「人物から学ぶキリスト教の歴史」

自校史教育のための教材

同志社を知るための基本文献

読みやすい参考文献

- 本井康博
  『新島襄と建学精神――「同志社科目」テキスト』、2005年（定価500円、生協書籍部、同志社エンタープライズで販売）。
- 本井康博「新島襄を語る」シリーズ（全10巻）

マンガ・DVD

- 能田 茂 (著), 本井 康博 (監修)『マンガで読む新島襄』同志社大学。
- NHK大河ドラマ「八重の桜」DVD BOX（3集）

YouTube動画

「良心学」の新設（2014年）

【対象とする時代】

現代における「良心」概念や「良心教育」の適用可能性に重点を置く。　→　同志社の「伝統的な」教育理念の再検討。

【対象者】

同志社関係者に限定されないグローバルかつローカルな応用可能性を探り、問題提起していく。同志社の理念が、現代世界にいかに貢献できるかを探求する。

「良心学」の特徴

【方法論】複数の学問分野を横断・連結する学際的なアプローチ。

- 神学・宗教学（小原）
- 国際政治（村田）
- 社会福祉（木原）
- 現代イスラーム研究（内藤）
- 国際生命倫理（位田）

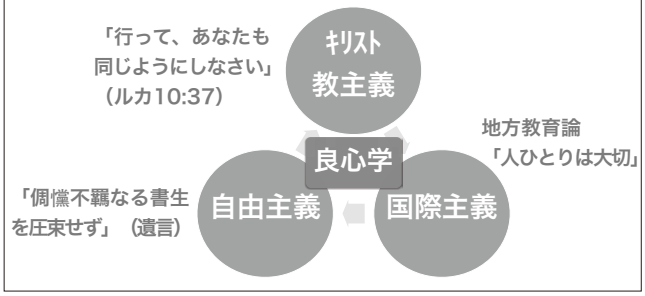
良心教育に関するシンポジウム

- 学校法人 同志社の主催で「良心教育に関するシンポジウム」を開催。
- 今年度のテーマは「「良心学」が目指す地平――良心を世界へ」。

ま と め

建学の精神の教育的課題と今後

同志社創立150周年に向けて



大学における宗教教育の理念と壁と可能性
―大谷大学の場合―

大谷大学・大谷大学短期大学部　副学長　　木越　康

―本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、殊に仏教の中に於いて浄土真宗の学場であります。即ち、我々が信奉する本願他力の宗義に基づきまして、我々に於いて最大事件なる自己の信念の確立の上に、其の信仰を他に伝へる、即ち自信教人信の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。―（清沢満之「開校の辞」より）

（1）大谷大学における教育理念の歴史と現在

大谷大学の歴史は、江戸時代前期 1665(寛文５)年、東本願寺内に僧侶のための研究教育機関として設置された「学寮」にはじまる。「学寮」では、仏教、とくに鎌倉時代の仏教者親鸞（1173-1212）によって示された浄土真宗の研究教育が行われ、江戸後期には学生数が1500 名を数えたとも言われる。

その後「学寮」は、明治政府により進められた国民教育制度改革と合わせて体制変更を重ね、1901（明治 34）年には、一般にも開放されるかたちで東京巣鴨に「真宗大学」として開校。初代学長の清沢満之は開校の辞で、「真宗大学」が当時次々と開校される他の大学とは異なって「宗教学校」であることを確認し、「仏教の中において浄土真宗の学場」であることを公言している。その後大学は京都に移転し、現在の京都市北区の地に「大谷大学」として再開校されるが、清沢によって示された建学の理念を継承する意図から、東京での「真宗大学」開校をもって、現在開学記念日として定めている。

大学では、さまざまなかたちで上記理念に基づく教育を行っている。

① 各種大学式典における仏教儀式の実施
② 親鸞を記念して行われる宗教行事の実施
③ 教育現場における仏教思想を中心とした科目の設置

それぞれ内容を紹介する。

（2）宗教教育の「壁」

上記教育活動の成果もしくは効果はどこにみられるのか。そもそも仏教精神に基づく教育は、何をもって成果と認めることができるのか。「壁」という視点から検討したい。

（3）宗教教育の可能性

それでは宗教教育の現代的意義や可能性をどのように考えればいいのか。清沢が「他の学校と異なりまして」と語った、他の大学とは異なる「宗教学校」としての独自性をどのように考えればいいのか。

以上（1）～（3）は、研究発表というよりも、議論のための話題提供としたい。

大学における宗教教育の理念と壁と可能性

―大谷大学の場合―

報告者;大谷大学　木越　康

（1）大谷大学における教育理念の歴史と現在

① 各種大学式典における仏教儀式の実施
② 親鸞を記念して行われる宗教行事の実施
③ 教育現場における仏教思想を中心とした科目

（2）宗教教育の「壁」

（3）宗教教育の可能性

（一）大谷大学における教育の理念

Carry out your duties
Respect one another
Be true to yourselves

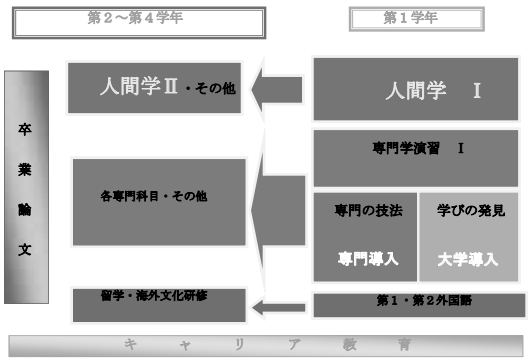
《仏教に基づく教育の理念》

自己の信念の確立の上に、其の信仰を他に伝へる、即ち自信教人信の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。
（初代学長清沢満之）

本務遂行・人格純真・相互敬愛
（三代学長佐々木月樵）

仏教思想に基づく
建学の理念

理念教育の実践科目「人間学」



「人間学」共通テーマ

「にんげん」とは何か？

「自己」とは何か？

・・・について考える！

自己とは何ぞや、これ人世の根本的問題なり(清沢満之)

仏道をならうというは、自己をならうなり(道元)

ただ年をとっただけならば、「むなしく老いぼれた人」と言われる。
(ブッダ)

人間は、自由の刑に処せられている。
(サルトル)

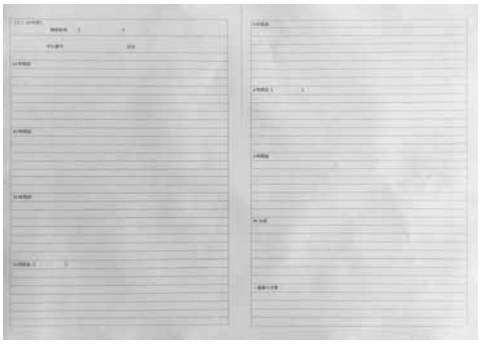
人間の本質・自己の本質
Ⅱ　創造の領域

願わくは
深く無常を念じて
いたずらに後悔を
のこすことなかれ
(親鸞『教行信証』)

深く無常を念じて

無常：常なること無し
―いのちは必ず≪終わる≫ということ―

実験　　あと24時間！！



---

16 家族にしてほしいことを聞く。家の部屋の整理、妹にあげるものと兄にあげるものを整理する。
12 家族に手紙を書く
8 母に手をつないでもらう。人肌を感じて過ごす。
最後 今までありがとう、迷惑とか不安とかいっぱいかけてたのに愛してくれてありがとう。親孝行もできないし先に死ぬという一番最悪なことして本当にごめんね。一緒にいられて幸せだった、ほんとうにありがとう。次生れてくるときにも、この家族がいいです。うち死んじゃうけど、本当に幸せだった。みんなもどうか幸せに。大好き

24 私は何をしたらよいのかわからないし、死ぬことが終わりなのか始まりなのかもわからない。
20 大切な人にもう一度会いたい。家族、友達、恋人。家族とはお別れを告げるのではなく、感謝したい。　…中略…　実際は恥ずかしくて言えないだろうけれど、こう思っている。
8 大切な人の隣りにいたい。
最後 死ぬ姿は見せない。
心から笑って、この世から去りたい。

（2）宗教教育の「壁」

学生と宗教との距離

教職員と宗教との距離

<世俗化>という問題

社会と文化の諸領域が宗教の制度や象徴の支配から離脱するそのプロセスである。･･･中略･･･現代世界は、世界と自分の人生を宗教的な解釈の恩恵なしに眺める人びとをますます数多く生み出してきたということである。（ピーター・バーガー『聖なる天蓋』新曜社）

（3）宗教教育の可能性

社会と文化の諸領域が宗教の制度や象徴の支配から離脱するそのプロセスである。･･･中略･･･現代世界は、世界と自分の人生を宗教的な解釈の恩恵なしに眺める人びとをますます数多く生み出してきたということである。
（ピーター・バーガー）

時代に密着せずに、それから十分な距離をとって、時代を見るさまざまの、ふだんは思いもよらないような視点を用意しておくこと。時代が岐路に、袋小路にさしかかったとき、そういう別の可能性を描き出してくれる視点があるかないかは、社会にとって死活のことである。 …中略… いまの社会の内部でうまくやってゆくための知恵だけでは足りないのである。（鷲田清一『京都新聞』2015.2.8より）

学生教職員共通テキスト（2014年試験的導入）

三つのモットー

本務遂行・人格純真・相互敬愛
（三代学長佐々木月樵）

Carry out your duties

Respect one another

Be true to yourselves

ご静聴、ありがとうございました